

藤枝商工会議所 経営発達支援計画評価検討委員会 会議録

会議名	第6回 経営発達支援計画評価検討委員会
日時	令和3年7月29日(木) 13時30分～14時20分
場所	藤枝商工会議所 4階ホール
出席者 (敬称略)	委員 藤枝商工会議所副会頭 江崎晴城、静岡産業大学情報学部教授 田口敏行、 藤枝市産業振興部長 田中草元、TmaH!コンサルティング 大石 徹 専務理事 杉浦 衛 常務理事 秋田弘武 事務局 小口章治、戸塚祥乃、八木明日香、曾根健一
議題	(1)令和2年度 経営発達支援事業の報告について (2)令和2年度 経営発達支援事業の講評 (3)令和3年度 経営発達支援事業の計画案について
内容	司会・開会：藤枝中小企業相談所 所長 小口章治 (1) 令和2年度 経営発達支援事業の報告・令和3年度事業計画説明。 1.地域の経済動向に関すること 2.経営状況の分析に関すること 3.事業計画策定支援に関すること 4.事業計画策定後の実施支援に関すること 5.需要動向調査に関すること 6.新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること 7.地域経済の活性化に資する取組 8.経営指導員等の支援能力向上等 以上8項目に基づき、令和2年度行った事業を説明 ・新型コロナウイルス感染症が企業活動に及ぼす影響に関する調査 ・経営分析・商圈分析を踏まえた事業計画策定セミナー ・生産性向上を目指したITセミナー ・カリスマ経営コンサルによる利益アップコンサルティング ・地元密着の小規模飲食店応援アプリ『静岡ファボローネ』を 活用した飲食店販促プロジェクト といった伴走型補助金を活用して推進した事業を重点的に説明したのちに 併せて実際の伴走型支援事例を3事例紹介した。 また、令和3年度に予定している事業についても説明を行った。 (2) 令和2年度 経営発達支援事業の講評 ■江崎副会頭 厳しい状況下、事業が継続できなくなる事業所がでてきている。 「計画を立て、効果検証し経営していく」という視点を持つことは大事なこと。 地元のスター（成功者）が「こうやって伸びた」という事例があれば次につながる。 支援を受けた事業者が次の事業者へのモデルとなり次々とつながっていく といい。 ■田口先生 伴走型支援は帳簿に弱い人のサポートになりがち。エクセルの支援は大事。小規模 事業者がやるべきことの第一歩はエクセルだと考える。エクセルは分析ツール が非常にすぐれている。今回はとてもよい支援をしたと思うし、指導員もそうい ったものを強化してほしい。売上に直結するものはない。コツコツとした支援が 必要であり、データの活用の大切さを気づかせることを行ってほしい。デジタル 媒体を活用した宣伝効果は絶大。エクセル+アプリ・ソフトを定着させるような 分析の強化となる支援をしてほしい。 ■田中部長 ファボローネの数値の差は更新の頻度によるものか？ ⇒①ファボローネの導入する前に中小企業診断士を入れてヒアリングをし、販促 計画を立てた。まず自社の強み・売りを決めることが大事。 ②面倒なことを惜しまずやるマインド、意識が大事。 支援事例の資料はHPに出ているか？ ⇒ミラサポプラスのHPに掲載 支援事例の紹介がとてもよかった。優良モデルは共有してほしい。

■大石診断士

定性的な分析はもちろん大事だが定量分析も行うべき。自社が他と比べてどうなのか。定量分析を行うにはエクセルがどうしても必要。エクセル講座は非常にいい取り組み。この事業は継続して定量的な分析をしてもらいたい。

■杉浦専務

昨年はコロナの影響ですべての事業はできていないが、オンライン等を活用しながら指導員が一生懸命やってくれた。持続的な伴走的な支援をしていきたい。

■秋田常務

定量的な分析、WEB活用は引き続き行っていきたい。計画については来年までどうって実施していくか。それぞれの関連性についても視点を向けていきたい。

以上

以上